

## 地域との絆 あけぼの市

新鮮野菜を買い求める人たちが賑わう  
ほのぼのあけぼの市



餅つきに精を出すボランティアの男性陣



イベントは産直野菜や角ずしのほか、惣菜パン・菓子パンや手芸品など作業所の自主製品の販売をはじめ、餅つきや千羽鶴解体の体験など盛りだくさんの内容。午前11時、第三作業所を運営する社会福祉法人交響の藤本風明理事長のあいさつに続いて、作業所の仲間（利用者）でつくる音楽グループ

錦秋の恒例行事「ほのぼのあけぼの市」が11月21日、広島市東区曙2丁目3-23のきつつき第三作業所でありました。同作業所が地域交流イベントとして毎年開催し、今年で7回目。付近住民や福祉関係の人たちが切れ目なく訪れ、地域社会に徐々に浸透してきていることをうかがわせました。今回の「あけぼの通信」はこのイベントの特集をお届けします。

## バザーや音楽で交流

「たんぽぽ」の演奏で正式に幕開け。実際には、餅つきが一足早く始まったこともあり、開幕を待ちきれず品定めをする買い物客の姿も。

今回は、餅米こそ昨年と同じ30キを用意したものの、角ずしとパンはそれぞれ昨年より1・6倍、2倍の80パック、約200個で対応。それでも、いずれもイベント終了を待たず完売する人気ぶり。この角ずしと白菜、キャベツ、トマトなどの野菜は北広島町からの直送。パンは交響が運営するソアー（東区若草町）から出来立てが持ち込まれました。

民生委員をはじめとするボランティアの皆さんと仲間14人が販売や餅つき、餅の成形などに大車輪。あつあつの豚汁やフランクフルトの提供にも力を入れました。



## たんぽぽ熱奏



○…ハンドベルと鍵盤ハーモニカで奏でる「お馬の親子」「シャボン玉」など4曲のメロディーが秋空に響きます。演奏したのは、きつき第三作業所の音楽グループ「たんぽぽ」。オカリナ奏者が体調を崩し参加できなかったため4人で臨んだステージ。「顔見知りの地域の人がいだったので、いつもより緊張した」（女性リーダー）と言うものの、普段と変わらぬ演奏を披露していました。

## あけぼの市



## イベントの道しるべ

○…11本ものほのぼりが会場や周辺に林立？ 昨年新調した「ほのぼのあけぼの市」の8本に加え、既存の「新鮮



野菜」と「ほのぼのショップ」の計3本がイベントのムード盛り上げにひと役。「会場がどこかよく分からない」という人の道しるべにも。

# 広がる友情の輪

○…3年前から作業所の室内で始めた千羽鶴解体体験コーナー。今年も姿を見せた小学生の兄妹は常連さん。年を追うごとに解体のスピード

## 今年も千羽鶴解体

がアップ。手際よさは担当の職員をしのぐほど。餅つきをしようというたんぽぽを離れた後、再び戻って折り鶴を広げ始めるなり、「やっぱり、こつちが楽しい」。

## 連帯べったん

○…「ヨイショ！」を振り下ろす。蒸し上がったもち米が石臼に運び込まれる。その都度、ボランティアの男性たちが杵を握る。この日は約10回の餅つき。終盤には女性や子どもたちも参戦。ひときわ大きな掛け声が飛び交いました。



第7回ほのぼのあけぼの市にお越しいただき、ありがとうございます。地域の皆様に感謝の意を表そうと始めたあけぼの市。毎回、

○「野菜がおいしい」「角ずしがおいしい」と声を掛けていただき、心強く感じました。今後もこ

## お礼

れらの経験を励みに地域の中で歩んできたいと思います。本当にありがとうございます。

（齊藤英次）